

おたふくかぜ(流行性耳下腺炎)

おたふくかぜ(流行性耳下腺炎)はムンプスウイルスを原因とする、3～6歳でかかることが多い感染症です。両側または片側の耳の下(耳下腺)が腫れ、そのふっくらした顔から「おたふくかぜ」と呼ばれています。

★症状★

- 潜伏期間は2～3週間程度です。
- 両側または片側の耳の下(耳下腺)が腫れて痛くなりますが、通常、約1～2週間で治ります。熱が出るがありますが、3～4日で下がります。
- 合併症として無菌性髄膜炎を発症し、重症化することがあります。
- まれに回復不能な難聴になることがあります。治ってからも気になる症状があれば、かかりつけ医に相談してください。
- 妊娠初期の女性がかかると、流産の危険性が高くなるといわれています。

★治療方法など★

原因となるムンプスウイルスに対する有効な薬はなく、熱を下げるなど症状を和らげる治療(対症療法)となります。



★感染経路と予防方法★

- ムンプスウイルスは感染力が強く、感染している人の咳やくしゃみのしぶきを口や鼻から吸い込んだり、ウイルスのついた手で口や鼻を触ったりすることで感染します。症状のある人に近づかないことが重要です。
- 効果的な予防方法はワクチン接種ですが、任意接種のため費用は自己負担となります。接種を希望するときは、医療機関に相談しましょう。



★学校や保育園など★

流行性耳下腺炎にかかったら、学校や保育園などに速やかに連絡しましょう。一般的には、登校・登園が禁止されますので、登校・登園については医師の指示に従いましょう。

気になる症状がある場合は、すぐにかかりつけの医療機関を受診しましょう！



★お問合せ先★

○京都市保健福祉局衛生環境研究所 微生物部門
(TEL:075-606-2676 FAX:075-606-2671)

(平成28年7月編集)